

系ポンプの点検結果について

当局から、A充てん／高圧注入ポンプ主軸折損の原因と対策（中間報告）について、報告・説明を受け、その後、同様な事故が火力発電所等でも起こり得るのかについて質疑があり、調査をしたい旨の答弁があった。

(二) 川内原子力発電所に関連する諸問題について

ア 環境調査の進捗状況及び雇用状況について

当局から、本年六月末現在の環境調査の進捗状況として、総合進捗率は九六・一％、地質調査については敷地内・敷地外地質調査が完了し、現在分析・評価中であり、進捗率九八・一％であること、気象調査については終了し、進捗率一〇〇％であること、環境アセスについては現況調査を終了し、現況調査のとりまとめ実施中で、進捗率八七・二％であること及び地元発注・雇用の状況の報告を受けた。

イ 電源立地地域対策交付金の交付限度額算定に係るデータの誤りについて

当局から、データの誤りに係る内容、原因、経過、返還予定額及び今後の対応について、報告・説明を受けた。

交通体系整備対策調査 特別委員会

委員長 寺脇 幸一

八月五日開催

(一) 川内港の港湾計画及び利用促進について

ア 川内港の港湾計画について

当局から、昨年実施した鹿児島県主要港湾機能分担調査、環境現況補足調査の業務委託結果を踏まえ、川内港の港湾計画改訂の方向性について取りまとめを行い、調査・検討等の段階であるが、早期に港湾計画の改訂作業を進められるよう県へ要望する旨の報告・説明を受けた。

なお、審査の過程において、港湾計画の改訂に当たっては、川内港の利用度が増えるよう久見崎地区にチリメン荷揚場を設置するよう計画の中に盛り込まれた旨の意見が述べられた。

イ 川内港の整備等について

当局から、これまでの施設整備状況、平成十八年度及び平成十九年度の事業実績、平成二十年度事業概要、アクセス道路である県道四十四号京泊大小路線の平成二十年度事業概要並びに県道四十三号

川内串木野線の平成二十年度事業概要については、前回の報告と内容は変わっていないことの説明を受けた。

なお、審査の過程において、甌島航路の発着については唐浜地区が適地とされているが、港の整備状況、安全面等から京泊地区も検討されたい旨の意見が述べられた。

ウ 川内港の利用促進について

当局から、本年七月十六日から同月十八日にかけて実施された「平成二十年度韓国ポルトセール」の実績、七月二十三日から同月二十六日にかけて実施された「中国江蘇省常熟市との交易可能性協議」、本年七月三十日に実施された「薩摩川内港（川内港）ポルトセミナー」について、それぞれ報告・説明を受けた。

エ 甌島航路について

当局から、主要経過として、本年八月四日に、甌島の各地区コミュニティ協議会会長と甌島商船株式会社との意見交換会を実施し、地区コミュニティ協議会会長からは、一定の議論は行ったことから、市の考えのとおり、高速船は川内甌島間の航路で良いこと、また、甌島市民一〇〇％の総意による賛成はあり得ないので、甌島商船との協議を更に行い、新船の建造を会社又は市のどちらが行うのかを

含め、早期決着をお願いする旨の意見が出されたこと、次に、甌島航路の経緯と現状について、国庫補助航路の存続、財源、港湾整備等が課題であること、フェリー「ニューこしき」の燃料油価格変動調整金の増額変更等についての報告・説明を受けた。

なお、審査の過程において述べられた意見・要望の概要は次のとおりである。

- ① 甌島航路の発着については、北西の風が船の欠航等に影響を与えることから、川内港と同じ状況の港のデータを収集し研究されたい。
- ② 川内甌島航路開設については、甌島市民の気運も高まっていることから、関係機関と連携を図りながら、九州新幹線全線開通時までには運航できるよう努力されたい。
- (二) 南九州西回り自動車道について

当局から、用地買収の進捗状況等の報告・説明を受け、アクセス道（仮称）宮崎バイパスについては、県へも機会あることに要望する旨の報告・説明を受けた。

(三) 甌島縦貫道について

当局から、藺牟田瀬戸架橋の主要経過として、本年三月十五日に実施された甌島漁業協同組合の部会による漁業補償交渉委員会の設置等の決議について及び六月二十